

自分の人生、六〇年後、七〇年後何を犠牲にして何をしたいか

語り手 東 紘世（高校十五期生 生命科学部・起業家）
聞き手 朝倉日和

今の活動について

*

—今の東さんの活動について教えてください。

今はNoPiA合同会社という会社で現在行われている教育と違うことをしたいと思って。今、立命館守山ではサイエンスAP（高校三年時、G L sコースの生徒のみ受けることのできる探究授業）とか、あとは共創探究（高校二年時の全員、高校三年時のAMコースが受ける探究授業）とかあって、その授業受けて良かったと思う。でも、他の公立高校では全然そういう授業受けてないから、なんかしたいなと思って立ち上げた団体で活動しています。今やってるのは、こつちEdShiga。エデュケーションシガ。滋賀県教育を変えたいなと思って作った団体。それと、この探究 school は塾。塾なんやけど国数英社理を最低限押さえてつ面白いことしてる。例えば花火を打ち上げんのに必要な速度を求めてみようぜとか、ボールを実際に投げるんやったらどうすんのか。そういうのを既存の科目・教科を横断してやってる塾かな。探究スクール。いいですね。これを高校生でやろうと思ったってことですか。

これね、実はこれ始まったん両方とも今年。だから高三の時に立ち上げて色々あってん。三年目なんだよね。

*

起業したきっかけ

—起業するって、今の世界にないものを作り出さなあかん感じしませんか。

うん。いやそうでもないかもしれない。僕が高校生の時もそういう質問を結構したんやけど、起業の選択肢としてはやっぱりそこなんよ。世の中にないからやろうっていう。起業したいですって高校生、時々いるやんか。その子達に言うのは起業して燃え尽き症候群にならないかっていうこと。

—起業がゴールになっちゃう。

そうそう僕高一の頃起業しようと思って。起業する前に思ってた。俺起業したら燃え尽き症候群なるかもみたいな。危ない、危ないってなつて。もう「教育を変える」っていうのを職業選択の上でモットーにした。教育を変えるって何があると思った時に、今の教育をズバって変わる場所ってどこやと思う？

—塾ですか？ 学校ですか。

もう日本の教育やで。日本の教育で変えられる場所。日本の教育自体を全部変えたらと思うたらどこやと思う？

—政治家ですか。

その通り。文部科学省の大臣とか官僚とかになればそれは簡単やわ。でも思ったんやけど、文部科学省の大臣になるには被選挙権がその時には足りひんと。あと、高三の終わりかももう大学一回生になる時に選挙応援してたんやけどめっちゃくちや大変やって、俺、無理やつてなった。そこで政治家になることは諦めた。ほんで学校の先生になることも考えたわけ。先生って一クラスの四〇人しかみれへんわけやし、校長なつても一つの学校だけやん。教育委員会になると、教育委員会って一年で変わ

んねん。スパンが一年や二年ってことは、そこで教育変えられるかっていったら変えれない。だからもう民間でやるしかなかった。ベネッセとかも見た時に、大企業すぎると何が問題かっていうと部署がありすぎて、やりたいことができない。それで、本当にやりたいことを自由にしたいなと思って選択肢の一つにあった起業をした。あとは社会の齋藤先生いるやんか。高二の時立ち上げたって集会で話したけど、一回諦めてん。そしたら、あの先生になんでやらへんのって言われて、そこが後押しになって起業した。それで三年続いてる今。

*

今学んでいること

—大学では何を学んでいるんですか

僕の専門は生命情報学やねん。生物と情報を重ね合わせるっていう感じ。チンパンジーと人間の塩基対のどこが一緒なのかを調べたり。あとは心臓に流れる血液のシミュレーションとか。プログラミングを使っている。大学でしていることと、会社でしていることは全然違う。頭を切り替えないとあかん。

—なんで経営学部選ばなかったんですか

いろんなこと学べそうと思って。生物、情報、化学、物理を学ぶから一番幅広く学べるやん。いろんな知識つけとけば、会社の方でも役立つかなって思ってた。

*

僕、朝倉さんと一回会ってると思うねん。会ったというか（朝倉が）一方的に知ってると思う。朝倉さんが高一の時、キャリア講演へ行

った時、僕は年間のまとめみたいなんを話してくれて由谷先生に言われて、全員の前で話してん。

*

学生時代

—なんで立命館守山中学校を選んだんですか。

いい質問やな。僕は小四で立守いくこと決めて。小四、十歳の時。なにかっていうと、立守の図書館にふかふかソファあって小四の頃、座って。あ、お母さんここ行きたいって決めた。

—なんで行ったんですか。

小学生の時もなんか特殊なやつたらしくて、公文の教室長に行ってみたらついていわれて。当時はそんな興味なかったな。嫌々行ったら、ソファがふかふかすぎてこことやと。

—中学の思い出はありますか？研修とか海外行きますよね。

ニュージランドに三週間ね、みんな行きはるねんけど。僕だけ三ヶ月。長期留学みたいな。当時倍率低すぎて、なんかいけて。審査基準足りへんかってん。俺、英語できひん子やって、今でもできひんねんけど。繰り上げ合格みたいな。英語の先生が東くん頑張ってるから入れさせてあげよってなったらしくて。入れた。六人しかいなかったから。

—留学ってどうなんです。楽しいですか。伝わるんですか。

あ、伝わる。ボディラングエージでいける。中三英語でいける。

—高二の海外研修どこ行っただけですか。

国内に変わった。沖縄。海外めっちゃ行きたかったけど沖縄やった。行ったことなかったし。

—何するんですか。沖縄でめっちゃくちゃ楽しんだ。

―海外やったら学ぶ一週間ありますよね。

全然楽しんだ。全然、海行って。国際通り行って。一応学びはあったよ。新聞社行ったかな。平和学習とかをテーマにやってたけど。もうみんな寝てたし。ちゃんと僕、聞いたけど、でも、基本遊んでた。海外の方がいいと思うよ。めっちゃいきたかった。その当時は行けへんかったから学級委員がめちゃくちゃ頑張ってくれた。ロングホームルーム委員たちが集まってなんとかしたいねって話して。旅行会社と一緒に企画してくれた。

―高校で楽しかったことありますか。

文化祭がめちゃ楽しかったですよ。

―何やりましたか。劇やりましたか。

劇やった。『僕たちの七日間戦争』って知ってる？

―何ですか。

『僕たちの七日間戦争』っていう小説があんねん。簡単に言うとな法律とかいわる大人の理不尽に耐えられなくなった子供たちが家出をして工場に立てこもるっていうストーリーや。七日間を三日に短縮して『僕らの三日間戦争』っていうのをやった。で僕その監督した。演技指導。

―すご。演技もできるんですか。

演技賞とった。うちの友達にめちゃくちゃ演技うまいやついて、全員うまかったんやけど、もうガーってやってくれたから。こうやってくれとか言ったらやってくれて、グランプリは取れへんかってんけど演劇賞取った。

―それって別なんですか。グランプリと演劇賞。

グランプリ、準グランプリが発表されるやん。でも「演技賞」って言われても全員叫ばなかったね。グランプリじゃないのみたいな。全員黙ってた。

*

立命館守山

全然話変わるけど、僕らの時のGLsと、見させてもらった中間発表のGLsやけど、雰囲気ちゃうな。今の雰囲気、楽しそう。僕らの方はなんか勉強だけやったから。今なんか変わってるでしょ。

―勉強する時はしますよ。

でも、俺、勉強楽しくやってた覚えはあるで。ちゃんと。現代文はちよつとしんどいなと思っただけど。元から言語系苦手やし、テストも低かったけど、でも楽しかったですよ。だから藤田先生の授業とか全然好きだった。大学でも同じ授業をまた受けるねん。もう一回、化学を復習みたいに。全部忘れてた。

―短期記憶ですよ。

ほんまにこれ短期記憶やな。それが辛いなと思った。

―遅れやっぱ取りますか？

やっぱ外部は全然違う。ほんまに、「アホ」って言われてんもんずつと。「なんでこんなわからへんの」って。みんな受験して大学来た子達やからね。僕の学科、立守から行つたの僕だけでした。行ってびっくり、俺だけ。ほんで大学入って僕だけやから最初友達作りからスタートした。で、僕中高一貫やったからさ、中一の時以来の友達作りだった。だから完全に友達の作り方忘れて、ほんでミスった。結構ミスった。最初「関わりたくない」とか言ってくるやつ多かった。もうインパクトでいけると思っただけど、しけちゃった。ミスった。無理やった。

―立宇治の人とかいないですか？ 本校（立命館高校）とか。頭いいですか？

本校やっぱ頭いいな。附属の話で言うとき、本校、頭いい。宇治は国際めっちゃすごい。慶祥は受験。りつもりはイベント。あすなろ祭が守山。もうあそこしか自慢できひん。それだけ。あと探究とかやけど。で中入生も見たら分かるけどさ、結局、成績一緒になるやん。一緒。大学でも今は成績で見たら中ぐらいいいるし。最初の時アホって言われ続けでも内部生って点数の稼ぎ方知ってるから。成績を維持はすることできる。そうしているうちに、外部の生徒はみんな、落ちていくから。立守生は成績を維持できる。賢く生きる方法知ってる。いいようにいつてるけどやっぱそう思うな。課題をちゃんとやろうとかさ。そういうマルチタスクはうまいと思うな。受験とかはもうやっぱ一気にガーってやる人が多いから。で燃え尽き症候群やろな。

―入るのがゴール。

そう。見てきた。もう何人か。入ってもうなんか消えてったよっていう人。当時ほんまに一回生めっちゃ賢かったのに、今やもう単位落としまくってる子とか全然見る。で、本気出せば通れるとか言うてんの。単位取ってへんやんって。やっぱ立守生でそういう落ちぶれてる子はあんま聞かん。同級生でも。実際入って、追いつけない子も多少はいるけど賢く生きる方法知ってるから。

＊

探究の入り口

―何をしたら発想力養われるんですか？

何やろう。いろんな発想力、そもそも、自分には、めっちゃあると思っただけ。ただ、常にワクワクやりたいことは思いつくんよ。うん。

常に考えてるんかな。考え続ける。だから、俺の親の教育は良かったのかもしれない。親からは基本疑問に思ったことは口に出さず言われて。もうほんまにちやいやい頃から言われて。信号の色の並びやけど、疑問に思わない？ なんで信号の右側が赤なんとか。

―知らないです。

なんでそう思わへんかったん。なんで右側なんかな。青、黄色、赤やねん順番って、法律で決まってるの。トラックとか大きな車が前にあった時、信号って見にくいやん。でも右側にあれば止まることだけは分かる。そう。安全を考えたら、「止まる」だけ分かればいいやん。みたいな感じで常に日頃から疑問に思えよって言われて。中一までを答え教えてくれた親が。基本考えて答えを教えてくれる。で中一からスマホを持つようになった。そしたら自分で次調べろって言って。疑問に思ったら調べろって言うから、もう今でもわからなかったすぐ調べる。やっぱその調べる能力あると、その調べ方も分かるし。ていうのは多分、思考のあれなんかな。それが探究の入り口。

＊

自分軸

―自分で行動起こせるってすごいと思うんですよ。

いや、でもどうかな。でもほんまに必要と思ったからじゃないかな、この会社が今。だからやってみた。大学生で起業してる子いるけど、やっぱりたいことしかやってないとか、その燃え尽き症候群の子めちゃくちゃ見てきてる。何をしたいか。今の社会に何が必要か。一番いいのは自分軸を決めること。自分に何が必要か。大学生によく言ってるけど、今僕ら三回生って就活やねん。大体、三回生就活始まってきて、どの会社いくとか「就活軸」を決めるって言ってんねけど、いや、そうじ

やなくて自分の人生、六〇年後、七〇年後、何を犠牲にして何をしたいかじゃない？（名刺を見せてくださりながら）オタクプロデューサーって書いてるでしょ。これが僕の事やねん。高校生と中学生、大学生の若い人たちがオタクってあるでしょ。なんか好きなやつある？

―私はジャニーズが好きです。

じゃあ、それ活動にしたいって思う子もいるやんか。例えば「推し活したい」「アイドルグッズ作りたい」とかね。僕はそれをプロデュースしてるだけ。なんでかっていうと「好き」がある時点でエネルギーがあるということだから、その子を活動にさせるのもう簡単なことで、僕も楽しいわけ。そういうの好きだね。俺ジャニーズ知らなくてもそういうの好きやねん。その「好き」をグッズにしたり、ビジネスにしたりする。そのノウハウは知ってるねん。知ってるからそこプロデューサーの観点で見る。好きやからさ、だから僕、滑走路って言ってる。これ軸にして活動してる。僕、就活するにしても違う会社を作るにしてもオタクプロデュースは変わらん。これは僕の人生で今後死ぬまではやろうってしてること。つてなるとそれこそ就活とか、その時大学院とかも選ぶ時にもう軸になるでしょ。選ぶ基準になるから。そういうの決めといたらめっちゃ楽かな。自分の人生どんなことしたいかとか、こういう世界作りたいとかあるとめっちゃやりやすい。

―夢が広がる。

やろ。あとこれを高校生考え出したらめっちゃすごいと思うで。つていうのは大学選びでも理由つけないとあかんやん。面接つていうとさ、「私はこういうこと学びたいんです」とか、「私は将来こういうこととして」じゃなくて、「私は将来こんな世界を作りたいんです」とか言い出したら、うわって。私は、私の人生を犠牲にしてこういう世界

を作りたいんです。そのために建築という技術が必要だったりとか、一級建築士が必要だったんです。とか言い出したらめっちゃストーリー綺麗や。とりあえず学びたいんです。は弱い理由。僕は手段とも言つたし、その先がありますつて言ったら、一番好印象やったし。八〇年を犠牲にして何をしたいか。人間の共通資本ってなんやと思う？ 資本っていうのはお金とか土地とか価値となるものやね。でもイーロンマスクとかヒカキンとか全然違うやん。お金も土地もないしみたいな。でも「時間」つて全人類、共通に与えられた「資本」じゃない。じゃそこをどう犠牲に、同じ時間を使って何するかつていうのが、いっちゃんポイント。

―すごい。講座受けてるみたいです。

俺、こういうことを最近いろんな人に言ってる。

―これ言ってるんですか。

めっちゃ言うてる。

―すごい人生の歩み方と考え方を知れました。ありがとうございます。

（次ページへ）

【感想】

今回の取材を通して私は、自分の未来について深く考えることができた。将来どんな自分でいたいのか、どんな世界を作りたいのか、実現させるためには何が必要か、自分の行動一つでなんでもできるということを経験した。東さんの話から学ぶことができた。人生を犠牲にして何をしたいか。という話が心に響きました。伺った話から、これまで漠然としていた将来像が少しずつ形になり、今後の進路選択にも自信をもって向き合えそうです。



右：語り手 東 紘世さん

左：聞き手 朝倉日和